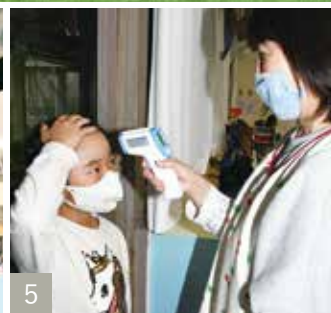


沼田東 第2 学童クラブ



1 市から寄付された政府マスクにデザイン 2 人工芝で駆け回る 3 誕生会でプレゼント贈呈 4 入り口の前で迎える保護者 5 学童に来たら検温して体調管理



コロナ禍に対応した
音楽遊びを楽しもう

じゅんこ
石井淳子さん
(沼田東学童クラブ支援員)

歌を歌えない状況なので、主にリズムの勉強をしました。4分音符や8分音符などの長さを、楽器で鳴らしたり手拍子したりして覚えめました。次第に1、2年生も理解できるようになり、チーム対抗のゲームで楽しむように。学校再開後の音楽の授業では、周囲に「何で知っているの」と聞かれ、「勉強を先取りできて嬉しかった」と笑顔で話す子どももいました。

曲を当てるイントロクイズやハンドベルにも全員が参加。ハンドベルは学校の先生を招待して小さな発表会を開き、聞いてもらえることを喜んでいました。勉強だけでなく遊びを通して音楽を学べるスタイルがよかったと思います。

染者や大きく体調を崩す子も出なかったので安心しました。

コロナ禍を通して学んだことを、今後どのように生かしたいですか

大河原 保護者の皆さんには感謝の言葉をたくさん掛けてもらいました。感染させないと毎日必死になる反面、疲れて悩んでしまうときこそ、皆さんの言葉を思い出して頑張ろうと思えました。保護者の協力があるからこそ感染者を出さずにやれているわけですが、ここまで思われていることを嬉しく思います。

伊藤 私もです。保護者をはじめ、市や地域、励ましてくださる人たち

の協力がありがたかったです。また、パートの支援員は働ける時間に制限があり体制を組むのが大変でしたが、パートさんの協力を得ながらうまく回すことができました。皆に支えられて学童クラブが成り立っていることを改めて感じました。

大河原 6月から分散登校として学校が再開、中旬から通常登校となり、子どもたちは無事に学校へ戻りました。学童クラブは一つの山を越え、振り返ると貴重な経験をたくさんしました。新型コロナウイルスの第3波が指摘されていますが、対策をしてこれまでやってきたことをやっていく、そういった覚悟と自信は付いたと思います。